

郷土資料館だより

Vol.28. No.1

2004. 10. 20

中郷探訪MAP

なかごと
～中郷地区を歩いてみよう～

向山古墳群
(3号墳より出土の鉄刀
平成13年)

玉川・愛鷹神社

玉川・禅叢寺

中島・左内神社旧址

中島・左内神社

長伏・鍛戸神社

松本・高橋神社

梅名・右内神社

長伏・泉福寺

御園・蔵六寺

秋山富南墓所

御園・蓮久寺

御園・歩一場

御園・神明宮

三島市の南部に広がる中郷地区を訪ねてみましょう。
〈ふるさと講座「中郷地区を歩く」(平成16年6月3日開催)より〉

「チョウとトンボ～のぞいてみよう！虫の世界～」

会期 平成16年7月18日(日)～11月7日(日)



▲ツマキチョウ(撮影:谷川久男氏)

皆さんは世界中にどのくらいの虫がいるかご存じですか。世界中の動物の約4分の3が虫で占められているといわれ、種類にすると約100万種、実に驚くべき種類数です。

企画展の内容を簡単にご説明しましょう。まずチョウについてですが「世界のチョウ」と「三島近辺で見られるチョウ」が展示されています。世界のチョウは、南米大陸のモルフォチョウやフクロウチョウをはじめ、世界の各地域を代表する種がここで見られます。また三島近辺のチョウとしては、アゲハチョウやモンシロチョウなどお馴染みのチョウから、現在では見られなくなってしまったシル

ビアシジミ、美しい羽を持つキリシマミドリシジミなどが見られます。

トンボについては「静岡県周辺で見られるトンボ」ということで、三島周辺のいろいろなトンボを見ることができます。さらに、沖縄や北海道でしか見られない珍しいトンボを写真パネルで紹介しています。また、トンボの楽園として磐田市にある桶ヶ谷沼を取り上げ、絶滅が危惧されているベッコウトンボを中心に展示・紹介しています。

この他、世界のちょっと変わった虫や虫の化石も見ることができます。

皆さんも是非「チョウとトンボ」の世界へ足をお運びください。



▲チョウトンボ(撮影:加須屋真氏)

「百年前の夢見た未来」報告

会期 平成16年4月25日(日)～7月4日(日) 61日間
来館者数 7,665名 資料点数 158点

平成16年の第1回目の企画展として、百年前の新聞記事にある未来予測をもとに、その予測のゆくえを実際の変化と発達を資料や写真からおっていきました。資料は、エジソン以来の蓄音機からMDへの移り変わり、洗濯の方法、食器の材質の変化など身近な資料を展示したため、懐かしさを感じる見学者が非常に多く訪れました。また最近の小学生は「レコード」を知らないということに、時代を感じさせられました。

今回の展示を通じて感じたことは、100年前の先人が100年後への希望をもっていたからこそ、それに沿うように努力し現代があるのではないか。いいかえると現在の私たちが未来への夢をどう描くかで、これからの進む道が決まるともいえます。果たして現在の私たちは、100年後をどのように描くのでしょうか。100年後の人々のためにも、ぜひ明るい未来を描いてください。それはもちろん現代の私たちにとっての、希望と活力になります。



▲展示会場より

ふるさと講座「中郷地区を歩く」

平成16年6月3日(木) 9:30~16:00

講師 小泉 安三 氏(郷土史家) 参加者18名

コース 楽寿園駅前口→向山古墳群→左内神社旧址→中島・
左内神社→梅名・右内神社→安久・秋山富南の墓→
御園大場川堤防・歩一場→蓮久寺→蔵六寺→神明宮
→長伏・泉福寺→鍛戸神社・高橋神社→玉川・禅叢
寺→玉川・愛鷹神社→楽寿園駅前口

当日は梅雨の時期にもかかわらず、歩くにはちょうど良い薄曇の好天に恵まれました。

最初の見学地は向山古墳群です。現地で古墳の様子を確かめながら、講師からは第3号墳の前方後円墳を中心に説明がありました。次に向かったのが中島にある左内神社旧址です。そこは旧下田街道から少



▲泉福寺・宝篋印塔



▲蓮久寺・本堂

し東へ入った静岡県企業局柿田川事務所の向かいにあり、普段ではなかなか気づかないポイントです。その後、現在の左内神社、右内神社を見学し、昼の休憩を挟んで安久にある秋山富南の墓に向かいました。さらに御園・蓮久寺や長伏・泉福寺、玉川・禅叢寺を訪ね歩きましたが、これらの寺院ではご住職がわざわざ時間を割いてくださり、貴重なお話を伺うことができました。

今後も本講座同様、市内各地の歴史探訪をとの声も多く聞かれましたので、併せて検討していきたいと思います。

中郷地区について

三島市南部の梅名川・大場川流域に広がる中郷地区は、1889年(明治22)に田方郡中郷村として成立し、1954年(昭和29)に三島市と合併しました。

現在も水田が広がる中郷地域には、弥生時代からの生活の跡と水田が多数発見されています。箱根山麓の向山・赤王山には多くの古墳が発見され、近年では安久から出土した人面墨書土器などの出土品が、奈良平安時代の信仰形態を伝えるとともに、伊豆国府との関連も注目されています。

大場川周辺の集落では、害虫や悪病除けの祭り「オテンノウサン」が7月初旬に行なわれます。祠を縄で縛りつけた神輿を担ぎ、町内を威勢よくねり歩きます。昭和30年代までは水害で苦しんだ地域ですが、現在は、商業施設や住宅が増え、伊豆の南部へ通じる国道136号線には多くの車が行き交い、水郷地帯の風景が変わりつつあります。



▲人面墨書土器(安久出土)



▲オテンノウサン(大場)

縄文土器作り

縄文土器作り教室 ～三島のルーツを訪ねて～

平成16年7月30日、8月4日、8月25日 参加者12名

夏休み縄文土器作り教室を「三島のルーツを訪ねて」と合わせて実施しました。参加者は市内に住む小学5年生と6年生の12名です。7月30日(金)は「土ねり」、半日かけて赤土と砂と粘土を混ぜ、8月4日(水)は「成形」、練った粘土を細い紐状にして積み上げる(輪積み法)により土器の形を作り上げました。8月25日(水)には坂公民館で「焼成」と火起こし体験や竹箸作り・勾玉作りを実施しました。

火起こし体験は、舞割り法ですべてのグループで火起こしができ、その火でブロック作りの炉に点火しました。焼成の時間を利用し竹箸作りを行い自分で作った箸で食事をする予定でしたが、ナイフの使い方が難しく、食事までにできず悔しい思いをしましたが、食後は各自思い思いのきれいな勾玉を作り上げました。炉の中では赤銅色に焼きあがった土器が顔を出し、参加者すべての土器が立派に出来上がりました。



▲焼き上がった縄文土器



▲火起こし体験



▲勾玉に穴をあける

夏休み昆虫教室

平成16年8月21日(土) 10:30～12:00 13:30～15:00

講師 池田二三高氏、江間修司氏、加須屋真氏、杉本武氏、谷川久男氏 参加者27名

企画展「チョウとトンボ～のぞいてみよう！虫の世界～」に併せ、夏休み昆虫教室を開催しました。この日は「県民の日」ということで、楽寿園は無料開放となり、また園内ではフリーマーケットなどが行われ、多くの子供たちで賑わいました。

講座の内容ですが、チョウとトンボについての展示解説、ハチの話、昆虫の飼い方、標本製作実習など、わずか1時間半の短い時間でしたが、一緒にいた父兄の方々も楽しんでいました。特に昆虫標本の製作実習では、実際にバッタを解剖するところから始めたため、最初は参加した子供たちも驚いた様子でしたが、次第に標本の形ができてくると興味津々といった表情に変わっていきました。また、昆虫教室終了後も、講師の先生方に熱心に質問する参加者もみられました。



▲標本製作実習の様子

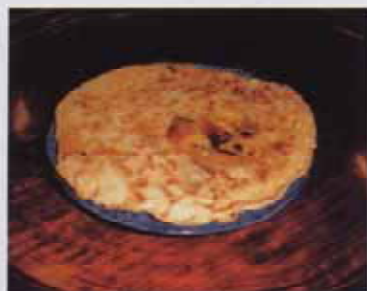


▲企画展示の解説

次回企画展示 富士・沼津・三島3市共同企画展

≡「暮らしの中の食文化」会期 ≡11月17日～平成17年2月27日 ≡

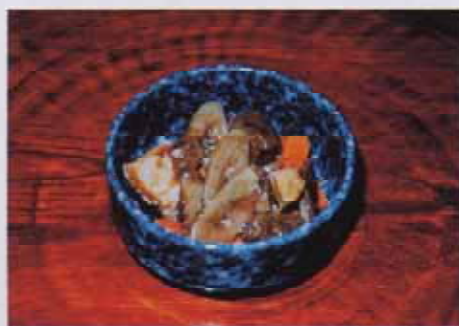
次回の企画展示では、私たちの静岡県東部地域の食文化についての古代から現代、地域食のある食べ物を紹介いたします。それに先立って「三島の食」について聞き取り調査をしましたので報告します。



簡単にできるなべやき



観光料理のズガニの鍋



いるか煮



味噌おでん

なべやき

うどん粉、ふくらし粉（重曹）^{じゅうそう}を卵でといて、鉄の炒り鍋^{い なべ}で焼いておやつにしていました。一時代前のホットケーキといえます。家によってはなべやきに薄く切ったカボチャやサツマイモ、タマネギを入れて焼くこともありました。焼いてそのまま食べたり、砂糖しょうゆをつけて食べたりしました。

かに汁

昔は川でモクズガニ（ズガニ）がとれると、殻ごと叩いてつぶし、すり鉢ですって濾し、味噌で味付けをしてかに汁にしました。

秋から春の夕方、魚の頭やアラをエサにモジリ（竹で作った筒）を仕掛け、川に沈めておくと、朝方には5～10匹のズガニが捕れました。ズガニは50年くらい前までは、大場川や桜川でもとれました。しかし水が汚れてきたためか、今ではほとんど見る事ができません。現在ズガニの料理は伊豆の河津町の名物となっています。

いるか煮

クジラは全国的に食べられていましたが、イルカを食べる地域は静岡、和歌山、東北地方など限られています。

秋に駿河湾や伊東沖でイルカ漁があり、よく作られた惣菜です。ゴボウ、人参を乱切りにし茹でておき、鍋に油を少し入れ、イルカの皮付き脂身を入れて脂出しをします。そこへイルカ肉と野菜を入れて、味噌、砂糖、しょう油で味をつけて肉が硬くならないように気をつけて煮含ませます。

寒い冬にからだを温める、家庭料理の一品です。

三島おでん

三島など県東部では、もともと「おでん」はこんにゃくの味噌おでんをいい、屋台や家庭で間食としてよく食べられていました。現在のさまざまなおでんダネのある東京風のおでんは「煮込みおでん」と言い分けられ、一般家庭で食べるようになったのは1970年ころになります。静岡おでんとは別物で、東京のタネ（はんぺん、ちくわぶなど）ともちがいがみられます。

寄贈品のご紹介

平成16年1月から5月まで間、次の方々からご寄贈にご協力いただきました。

ありがとうございました。

(敬称略)



下駄プレス機

神戸履物店 (本町)

- 下駄プレス機 1点
- 下駄はさみ機 1点
- 下駄 1点
- たらい 1点
- ほか4点

北原宗作 (本町)

- 「婦人結髪術」 1点
- 「かつら写真帖」 1点
- かつら 4点



日本髪かつら

- 炭櫃 1点
- 衝立 1点
- そろばん 2点
- 洗濯板 1点
- 櫛笄セット 1点
- 鏡 1点
- 結髪櫛 1点
- 柄付櫛 1点
- 梳き櫛 1点
- ぞうり 1点
- 扇子 1点



化粧道具

- 鬘 4点
- 櫛 3点
- 簪 7点
- 笄 5点
- 箱迫 2点
- 白粉 1点
- 八千代刷毛 1点
- 板刷毛 1点
- 眉刷毛 1点
- 牡丹刷毛 1点
- 口紅 1点
- 紅筆 1点

- ヘア 드라이ヤー 1点
- 柱時計 1点
- ほか36点

杉山竹富 (裾野市佐野)

- ショイコ 1点
- 和釘 一括

伊東晴枝 (新谷)

- オルゴールメリー 1点
- 電気鏡 1点
- おろし金 1点
- ハーモニカ 1点
- 暖簾 1点
- 押車 1点
- 日傘 1点
- アイロン 1点
- リュックサック 1点
- レコード 1点
- 雑誌 1点
- 新聞 1括
- ほか13点



東日小学生新聞 (昭和12~13年)

利用案内

休館日 毎週月曜日 (祝日の時は翌日、12月27日~1月2日)
 開館時間 午前9時~午後4時30分 (11/1~3/31まで)
 入場無料 (但し、楽寿園入場の際、有料)



●三島駅(南口)から徒歩5分。市立公園楽寿園内

郷土資料館だより Vol.28 No.1(第79号)

発行日 平成16年(2004)10月20日
 (年3回発行)

編集 三島市郷土資料館
 〒411-0036
 三島市一番町19-3 楽寿園内
 TEL 055-971-8228
 FAX 055-981-3730

E-mail : kyoudo@city.mishima.shizuoka.jp
 URL : http://www.city.mishima.shizuoka.jp/kyoudo

発行 三島市教育委員会